



地域でのフィールド調査・研究の情報

身近なタンポポを調べてみませんか？ - 5年に一度の広域調査を実施中 -

主任学芸員 芦谷美奈子

西日本のタンポポ調査が始まります！

現在、「タンポポ調査・西日本 2015」という調査が行われています。東は福井県・滋賀県・三重県から西は佐賀県・福岡県にいたる地域の 19 府県で実施されているタンポポの参加型調査です。この調査では、色々なタンポポの花のサンプルと採集場所の情報を当館に送っていただき、それらを調べて種類ごとに分布を把握することが目的です。2005 年から始まったこの広域でのタンポポ調査は 5 年ごとに実施され、今回で 3 回目になります。

滋賀県は、東西の生物相が混ざり合う境目に位置しており、また内陸ながら日本海側の気候の影響も受けているためか、8 種類ものタンポポを観察することができます(写真 1)。種類によっては一部地域に限定されてはいるものの、比較的狭いエリアで色々なタンポポが見られる、まさにタンポポ激戦地です。滋賀県を調べることで、色々なタンポポの分布域の境界が明らかになる可能性があり、とても興味深い調査地域と言えます。

写真 1：滋賀県で見られる色々なタンポポ

- (1 段目) 黄花系在来種:「カンサイタンポポ (左)」、「トウカイトンポポ (右)」
- (2 段目) 黄花系在来種:「セイタカタンポポ (左)」、「ヤマザト (ケンサキ) タンポポ (右)」
- (3 段目) 白花系在来種:「シロバナタンポポ (左)」、「キビシロタンポポ (右)」
- (4 段目) 黄花系外来種:「セイヨウタンポポ (左)」、「アカミタンポポ (タネ) (右)」

写真提供：鈴木武



タンポポ調査の経緯

参加型調査としてのタンポポ調査の歴史は古く、最初のタンポポ調査は1974～1975年に大阪で行われ、その後も大阪では5年ごとに継続されており、それが現在の広域調査の基礎となっています。琵琶湖博物館でも、1993年、1998年、2002年に独自のタンポポ調査を行い、それらの結果をもとに展示を作ってきました。

その頃と現在の調査は、どのように違うのでしょうか。まずタンポポの見わけ方として、^{そうぼう}総苞（花の下の緑の部分）の外片（外側部分）が上を向いているものが在来種、反りかえっているものが外来種というように、主に花の部分の形で種類を決めていました。しかし、1990年代に外来種と在来種の雑種があることが次第に明らかになって、形だけで判断するのは難しい場合があることがわかりました。そこで、さらに専門的な調査が必要だと考えられるようになり、遺伝解析の専門家の協力を得て「タンポポ調査・西日本2005」が実施され、今回の「タンポポ調査・西日本2015」へと繋がってきたのです。

滋賀県のタンポポ

前述にふれたように、滋賀県では比較的多くのタンポポを観察することができます。主に見られる種類は、在来種6種類、外来種2種類の計8種類です。在来種は、花が白いものが2種類（シロバナタンポポ、キビシロタンポポ）、花が黄色いものが4種類（カンサイタンポポ、トウカイトンポポ、セイタカタンポポ、ヤマザトタンポポ）生

育しています。黄色い花の在来タンポポは一見種類が分かりにくいのですが、総苞の内片と外片の長さの比率や、花そのものの大きさなどでおおよその種類がわかります。

また、外来種の2種類のタンポポは、総苞外片が下に反りかえっているのは共通ですが、タネの色を見ると種類がわかります。タネが茶色なのがセイヨウタンポポ、赤いのがアカミタンポポです。総苞外片が上向きでも下向きでもない中途半端なものは、ほとんどが雑種と考えられます。

これら在来種と外来種がどのような場所に分布しているのか、在来種の中でも環境によってすみ分けが起こっているのかなど、タンポポをめぐる面白いトピックは沢山あります。この調査で新しいデータを得て、最新の情報を展示や印刷物で公開していきたいと思っていますので、ぜひ調査にご参加ください。



写真2：2014年の観察会で博物館の周りのタンポポを観察する様子

調査に参加しませんか？

「タンポポ調査・西日本2015」は、2015年3月1日～5月31日に調査を行います。この期間に採取した花のサンプルを、所定の調査票と一緒に、花が傷まないように送ってください。

参加を希望される方は、チラシ（調査用紙が含まれます）を琵琶湖博物館で入手してください。あるいは、インターネットで「タンポポ調査 西日本」と検索して、「タンポポ調査・西日本2015」のHPから調査票をダウンロードしてください。このHPでは、タンポポの種類の見わけ方や、調査の位置を特定するのに便利なメッシュ地図も見るができます。

① 2015年3月22日（日）の13:30より、外部講師によるタンポポ調査の勉強会を開催します。② 4月4日（土）、5日（日）は、各日10:30、13:30より館内学芸員がタンポポ調査説明会を開催します。調査方法も含めて説明しますので、興味のある方はぜひご参加ください（いずれも申込不要）。③ 4月18日（土）には観察会も開催します（要申込）。催し物案内や館のHPをご覧ください。

西日本のタンポポ

兵庫県立人と自然の博物館 研究員 鈴木 武

春の道ばたや田畑に咲くタンポポ…。西日本では、最もよくみかけるのは外来のセイヨウタンポポで、田畑などでは在来種のカンサイタンポポ、時おり白いシロバナタンポポを見かけます。しかしながら、ここ 10 年のタンポポ調査などでは、いろいろなタンポポがあちこちで見つかり、タンポポの常識がずいぶんと変わってきました。

在来種のカンサイタンポポは西日本に広く分布してはいるのですが、まとまって分布している範囲は近畿中部から岡山・香川・徳島が中心で、意外と狭いことがわかってきました。さらに滋賀県では、東海に多いトウカイタンポポ、北陸に多いセイタカタンポポが入り交じり複雑な状況を示しています（図 1）。

外来種であるセイヨウタンポポの中には、在来種との雑種があることが 1990 年代から指摘されていました。2010 年のタンポポ調査・西日本では DNA 解析などによる調査を行い、見

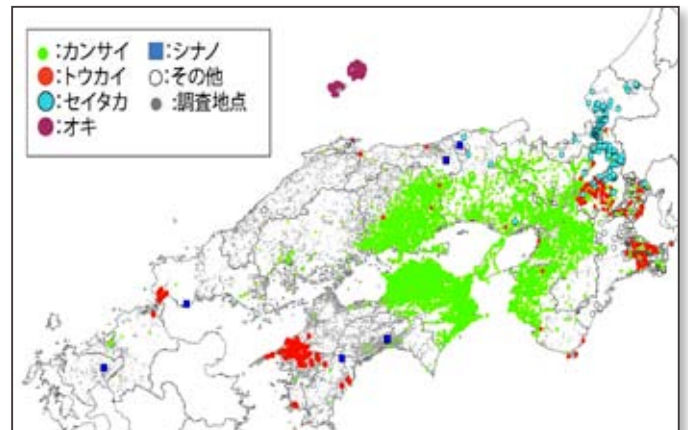


図 1. 西日本の二倍体タンポポの分布(タンポポ調査・2010 年より改変)

かけのセイヨウタンポポのうち約 60% が雑種タンポポでした。直径 5cm を超える大きな頭花をもつロクアイタンポポも雑種タンポポの一つとされています。神戸市で最初に認識されたタンポポですが、各地で見つかっています。

2014 年春の調査では、大津市と甲賀市でも確認できました。花の白いシロバナタンポポは西日本に広く分布しますが、うすいクリーム色をした

キビシロタンポポが岡山県を中心に分布しています。2010 年に甲賀市で見つかりました。近所の散歩のときにも、タンポポの黄色の微妙な違いや葉の形に注目すると、タンポポの暮らしぶりや種類も見えてくるでしょう。



写真 1. ロクアイタンポポ (甲賀市)



写真 2. キビシロタンポポ (湖南市)

シロバナタンポポは、不思議がいっぱい！

フィールドレポーター 前田雅子

滋賀県には 8 種類以上のタンポポが咲いていますが、シロバナタンポポは花が白色で、しかも花茎が長く伸びるため、ひととき目立ちます。

春にはまだ遠い 2005 年 2 月 15 日、出かけ先

の高島町（現高島市）で偶然、シロバナタンポポを目にしました。その 1 週間後に、タンポポを探しに湖西北部へ行くと、高島町から今津町にかけての 5 地点でシロバナタンポポを見つけること

ができました。ただ、そのうちの3地点では白色の花とともに淡い黄色の花も見られ、シロバナタンポポの姿をしているのに花の色は黄色がかったことが不可解でした（写真）。ところが、3月30日に再びそれらの地点へ行ってみると、どれも白一色の普通のシロバナタンポポになっていました。時期によって花の色が変わることがあるのでしょうか。キクの白い花びらは黄色を分解する酵素が働いて白くなっているとする研究があります。私が観察した現象はそれに関連しているのかもしれませんが。

ところで、シロバナタンポポの花は春だけでなく、秋にも咲くことがあるのをご存知でしょうか？春に花が咲いていた場所（40地点）を秋に訪れると、およそ半数の地点で、11月初旬から

12月初旬にかけて花が見られました。といっても、花の本数は春よりもかなり少なかったことから、秋は本来の花期ではないと思われました。どうして秋に咲くのか不思議です。

タンポポはみんながよく知っている植物です。それでも、何気なく見ている中で「ちょっと変わっているなあ」「不思議だなあ」と、気がつくことがあります。今年のタンポポ調査ではどんな不思議に出会えるのか、とても楽しみです。



写真 左から、うす黄色のシロバナタンポポ、普通のシロバナタンポポ、セイヨウタンポポ

【資料裏話 その16】 滋賀県最古のセイヨウタンポポの記録

植物資料整理担当 石田未基



セイヨウタンポポは1904（明治37）年に北海道で野生化したものが見つかり、現在は日本のいたるところで見られます。では、滋賀県にはいつごろ入ってきたのでしょうか。昭和初期から中期にかけて活動していた近江博物同好会の会誌に、植物研究家の橋本忠太郎氏が1942（昭和17）年に大津市藤尾（現在の津市横尾）の緑ヶ丘野球場（当時）に本種が一面に咲いていたと報告しています。

現在、橋本氏の標本コレクションは当館で所蔵し、整理作業を行っています。ギャラリー展示『近江の博物学者 橋本忠太郎—植物研究にかけた情熱—』（2013年）では、採集場所と日付の記録がある本種標本（左写真）を展示しました。ご覧になった方は、お気づきになりましたか？

● 編集後記 ●

植物は、どうして季節を感じとっているのでしょうか。また、言葉を発しない植物は、個性的に葉や花びら、匂いなど全部を使い目に付き易くしているのでしょうか。これからの季節、風を感じながら注意深く足元を見ると「新たな気づき」があるかもしれません。（不熟）

鳥の目 魚の目 クイズ

🕒 「タンポポはどれでしょう？」 🕒

タンポポを漢字で書くと、次のどれになるでしょう？

- ① 向日葵
- ② 女郎花
- ③ 蒲公英

答えは、紙面のどこかにあります。

◆ 巻頭写真の説明 ◆

滋賀県で見られるシロバナ系タンポポの一つ。2010年の調査では、生育地がはっきりと認識されていませんでしたが、その後JR甲賀駅近くの田んぼの畦に自生するのが確認されました。三重県で多く見つかり、滋賀でも三重県との県境近くに分布しています。